

PAT-NO: JP02000245521A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2000245521 A
TITLE: CELLULAR PHONE HOLDER
PUBN-DATE: September 12, 2000

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
YAMADA, TOMIO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
YAMADA TOMIO	N/A

APPL-NO: JP11096775

APPL-DATE: February 26, 1999

INT-CL (IPC): A45C013/00, A45C013/30 , H04M001/02 ,
H04M001/11

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To carry easily, take out without panicking for the signaling of incoming call, without fear of dropping, and avoid spoiling the holder's fashionable appearance by clipping a holder on a waist belt, putting a strap, which is tied to the phone in trousers pocket, between the pressing plates that is append to the holder.

SOLUTION: It is a holder that has a structure of avoiding spoiling the holder's appearance of fashion, even wearing a suit and the like, and taking out quickly if need be, by hanging down from the waist belt and storing in

trousers pocket, when carrying a cellular phone. The combination of the shape of clip 2 and a pressing plate 1 is free. It is possible to use an up and down opening and closeting type fastening device 4 and it is also possible to use a push-fold opening and closeting type fastening device 5 and it is also possible to open a hole 3 for passing through a strap. It is also possible for the male fastening device 7 to fix to the end of strap and pass its belt then connect it to the female fastening device 8. Moving up and down the female fastening device 8, the length is adjusted.

COPYRIGHT: (C)2000,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-245521

(P2000-245521A)

(43) 公開日 平成12年9月12日 (2000.9.12)

(51) Int.Cl.	識別記号	F I	キーワード (参考)
A 4 5 C	13/00	A 4 5 C	M 5 K 0 2 3
	13/30		M
H 0 4 M	1/02	H 0 4 M	C
	1/11		Z

審査請求 未請求 請求項の数4 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平11-96775

(22) 出願日 平成11年2月26日 (1999.2.26)

(71) 出願人 591169238

山田 富雄

滋賀県長浜市四ツ塚町118番地の1

(72) 発明者 山田 富雄

滋賀県長浜市四ツ塚町118番地1

Fターム (参考) 5K023 AA07 BB02 MM25 PP03 PP12

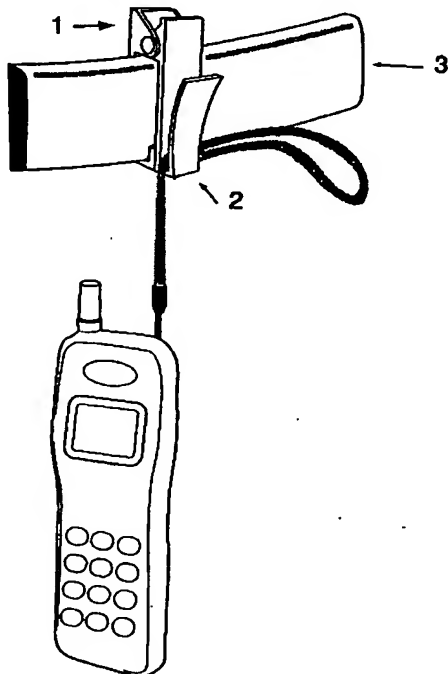
PP13

(54) 【発明の名称】 携帯電話機保持具

(57) 【要約】

【目的】 携帯電話機を携帯する時、手に持ったり、鞆に入れたり、ポケットに入れたり、携帯電話ケースに入れたりするが、ポケットに入れておくと不愉快な重さがあり、それぞれ着信時の取り出しの不便さを感じる。

【構成】 鞆の縁やベルト通し、腰ベルトを利用する。そこに本発明品を挟み、付随している圧着板に携帯電話機に取り付けてあるストラップを挟み込み長さを調節することで、着信時の不便さとポケットに入れて携帯するときの不愉快さを解決する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】挟持体の部材からなる一対のつまみであるクリップで、つまみ自体の片側に、携帯電話機に取り付けてあるストラップの厚みより狭い隙間のある圧着板をつけ、その圧着板部分に携帯電話機のストラップを挟む構造を特徴とした携帯電話機保持具

【請求項2】開閉機構を有する留め具の一端に携帯電話機に取り付けてあるストラップの厚みより狭い隙間のある圧着板をつけ、その圧着板部分に携帯電話機の紐を挟む構造を特徴とした携帯電話機保持具

【請求項3】挟持体の部材からなる一対のつまみであるクリップで、そのクリップのつまみ自体の片側に、2個以上の穴を開け、そこに携帯電話機に取り付けたストラップを通す構造を特徴とした携帯電話保持具

【請求項4】携帯電話機に取り付けてあるストラップに直接取り付けられる形でオス部品とメス部品に分離しており、それらを結合させることでストラップを任意の長さで調節できる構造を特徴とした携帯電話保持具

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、携帯電話機を携帯するとき、携帯電話機を腰ベルトから吊り下げズボンのポケットに収納することでスーツ姿等に於いても、ファッションシルエットの美観を損なわず、且つ、必要なときに素早く取り出せる構造の保持具に関する物である。同じく、携帯電話機を鞆の中に入れて携帯するとき、携帯電話機の紐の長さを調整しておき、本発明を鞆の縁に止めることで、必要な時素早く取り出せる構造の保持具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来は、携帯電話機は、腰ベルトに携帯電話ケースを取り付け、そこに収納し携帯をする。または、上着のポケット、カッターシャツのポケット、ズボンのポケットに直に入れて携帯をする。鞆の中に入れて携帯をする。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】腰ベルトに携帯電話ケースを装着する形状のケースは、ファッション性の美観に乏しく、且つ、着席した場合等において、肘や腹に当たり不愉快な抵抗を感じる。また、収納ケースが身体に密着状態であり、かつ、落下防止のためにカバーが付いているために着信合図時にケースから取り出すことに手こずる。

【0004】ズボンのポケットに直に入れて携帯をする場合、ポケットの底にある電話機が太股に当たり、又、不愉快な重量感を感じる。さらに、着席時にポケットの中での位置が不安定であり、知らないうちに落下している場合もある。

【0005】上着のポケット、カッターシャツのポケットに入れておくと、体勢によって落下する可能性が大き

く不安であり、不愉快な重量感を感じる。

【0006】ポケットの中にある不愉快な重量感を取り除くために、鞆の中に入れるが、着信合図があっても気づかなかつたり、取り出しにくい。

【0007】本発明は、従来の有するこのような問題点を鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、携帯電話機を楽に携帯し、着信合図においても慌てずに取り出せ、落下する心配もなく、保持者のファッション美観も損なわずにいられる本発明である。

10 【0008】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、請求項1・請求項2は、本発明を腰ベルトに止め、その保持具に付随している圧着板に、ズボンのポケットに入れた携帯電話機に結んであるストラップをはさみ込み、ポケットの底に着かない程度、ポケットの中に重量感の感じない程度の長さに調節することができる。速やかにストラップを挟み込み、取り外し易い。本発明のクリップは電話機と一緒に外れることはない。

20 【0009】本発明の請求項3は、クリップのつまみの片方に、携帯電話機に結んであるストラップがずれない様にジグザグに通せる穴が開けてある。そこにストラップを通してポケットの底に着かない程度、ポケットの中に重量感の感じない程度に長さを調節し、クリップ部分で腰ベルトに止める。携帯電話機をポケットから出す場合は、本発明のクリップ部分も取り外すことになる。

30 【0010】本発明の請求項4は、携帯電話機が、ポケットの底に着かない程度、ポケットの中に重量感の感じない程度に長さを調節するために、携帯電話機のストラップの端にオス部分の留め具を固定し、それをベルトに通しすでにストラップに入れてある上下移動調整できるメス部分留め具に結合させることで成り立つ。

40 【0011】

【考案の実施形態】図1・図2・図3～1は、ストラップを保持する圧着板部分。2は、挟持体部分。3は、ベルト部分を現す。図4は、実施状況図5・図6・図7・図8及び図1、それぞれのクリップの形態と圧着板との組み合わせは自由。図9の4は、上下開閉式の留め具の場合 図10の4は、押し折れ開閉式の留め具場合図11は、ストラップを通すための穴が開けてある。図15は、ストラップを通す穴が開いてある。図19の7は、ストラップの端に固定させ、ベルトを通してから図19の8と接合させる。8を上下させることで長さが調節できる。

【0012】

【発明の効果】四季を通じて仕事中は、上着は脱いでもズボンは脱ぐことはない。よって、そのズボンのポケットに収納された携帯電話機が腰ベルトに取り付けた本発明具を用いることで、ズボン内の不愉快な重量感や接触感がなくなる。また、着席時においては、ストラップが止めてあるために落下の心配もなく、携帯電話機が体勢

3

に順応するためにポケット内での違和感がない。更に、着信時においても取り出しやすい。

【0013】

【図面の簡単な説明】

【図1】

【請求項1】の側面図である。

【図2】

【請求項1】の斜視図である。

【図3】

【請求項1】の実施図である。

【図4】

【請求項1】の使用図である。

【図5】

【請求項1】の側面図である。

【図6】

【請求項1】の斜視図である。

【図7】

【請求項1】の側面図である。

【図8】

【請求項1】の斜視図である。

【図9】

【請求項2】の側面図である。

【図10】

【請求項2】の側面図である。

【図11】

【請求項3】の側面図である。

【図12】

4

【請求項3】の実施図である。

【図13】

【請求項3】の実施図である。

【図14】

【請求項3】の使用図である。

【図15】

【請求項3】の斜視図である。

【図16】

【請求項3】の実施図である。

10 【図17】

【請求項3】の使用図である。

【図18】

【請求項3】の斜視図である。

【図19】

【請求項3】の実施図である。

【図20】

【請求項3】の使用図である。

【0014】

【符号の説明】

- 20 1 圧着板部分
2 クリップ部分
3 紐を通す穴
4 上下開閉式止め具部分
5 押し折れ開閉式止め具部分
6 ストラップ止め具
7 オス形態の留め具
8 メス形態の留め具

【図1】

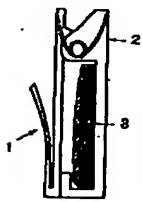
【図2】

【図3】

【図4】

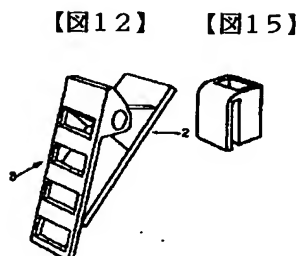
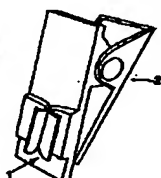
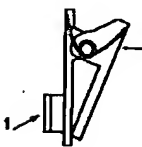
【図5】

【図6】



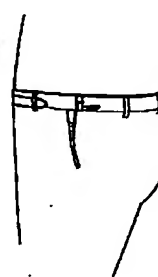
【図7】

【図8】



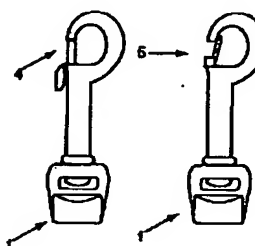
【図12】

【図15】

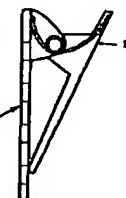


【図9】

【図10】



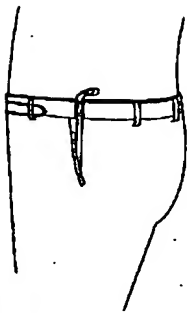
【図11】



【図13】



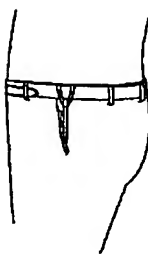
【図14】



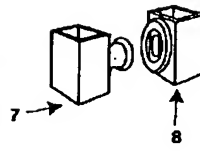
【図16】



【図17】



【図18】



【図19】



【図20】

